

5 自殺対策の基本方針

令和4年10月に閣議決定された「自殺総合対策大綱」を踏まえ、八峰町では次の5点を「自殺対策の基本方針」として、本計画の推進を図ります。

- 基本方針1 生きることの包括的な支援として自殺対策を推進する
- 基本方針2 関連施策との有機的な連携による総合的な対策を展開する
- 基本方針3 対応の段階に応じた様々な施策を効果的に連動させる
- 基本方針4 実践的な取り組みと啓発を両輪として推進する
- 基本方針5 関係者の役割を明確にし、関係者同士が連携して取り組む

6 自殺対策の主要施策

八峰町では、町の自殺実態や町民意識調査の結果を踏まえるとともに、自殺対策の基本方針に則り、「誰もが自殺に追い込まれることのない」生き心地のよい八峰町」の実現を目指して、主に以下の9つの施策を展開していきます。

施策1 地域・役場組織内におけるネットワークの推進

自殺対策に特化したネットワークの推進だけでなく、他の目的で地域に展開されているネットワーク等と自殺対策との連携を推進していきます。

施策2 自殺対策を支える人材の育成

役場職員を対象とした研修のみならず、地域の関係者を対象とした研修等の機会を提供し、自殺対策を支える人材の育成を推進します。

施策3 町民へのお知らせと知識の共有

町民との様々な接点を生かして相談機関等に関する情報を提供するとともに、啓発、各種メディア媒体を活用した啓発活動を実施します。

施策4 生きることの促進要因への支援

自殺対策に資する相談会や居場所活動等の実施、自殺未遂者やその家族への支援、遺された人への支援等を推進します。

施策5 高齢者への支援の推進

自殺リスクを抱えた高齢者の早期発見とそうした高齢者への早期支援、高齢者への啓発、高齢者を支援する人への啓発、地域支え合い活動等の拡充を推進します。

施策6 失業・無職・孤立・生活に困窮している人への支援の推進

生活支援等と自殺対策の連携推進、ひきこもり状態の人や家に閉じこもりがちな人に対するアウトリーチ支援等の推進、役割や出番を作る取り組み等を推進します。

施策7 有識者への支援の推進

有識者本人や家族等への啓発、有識者が所属する組織等への啓発や支援を推進します。

施策8 未来を生きる子どもたちへの支援の推進

子どもや保護者への啓発や支援、学校におけるその他の支援等を通して、未来を生きる子どもたちへの支援を推進します。

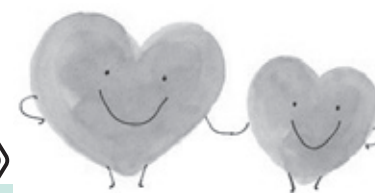
施策9 女性への支援

妊産婦への支援の充実、困難な問題を抱える女性への支援等、女性特有の視点を踏まえ、支援を推進していきます。

■ 問合せ先 福祉保健課 健康推進係 ☎76-4608

八峰町いのちを支える

自殺対策推進計画《概要版》



1 計画策定の趣旨

日本の自殺死亡率は、依然として主要先進7か国の中で最も高い状況にあり、中でも秋田県の自殺死亡率は、全国的にも高い水準で推移しています。

このような中、八峰町では「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指して、自殺対策を総合的かつ効果的に推進するため、平成31年に1次計画を策定し、自殺対策に取り組んできました。

そしてこの度、八峰町が行う「生きる支援」に関する持続可能な事業を動員して、自殺対策を推進するため、「第2次八峰町いのちを支える自殺対策推進計画」を策定しました。

誰もが自殺に追い込まれることのない「生き心地よい八峰町」

2 計画の推進期間

令和6年度～令和10年度までの5年間

3 計画の数値目標

令和10年度までに、年間自殺者を0人とするを町の目標とします。

4 八峰町の自殺をめぐる現状

分析結果から見てきた八峰町の自殺をめぐる現状を以下の10のポイントとしてまとめました。

- (1) 平成25～令和4年自殺者数は年平均2.4人であり、八峰町の自殺死亡率は秋田県全体の1.4倍
- (2) 自殺者の男女比は、全国や秋田県と比較すると、男性が多く、割合は約8対2
- (3) 年代別では「80歳以上」において、自殺者数が最も多い
- (4) 同居人の有無別では、約7割が「同居人あり」となっており、秋田県の比率とほぼ同じ
- (5) 八峰町における「自殺のハイリスク群」は以下の4グループ
 - ①「60歳以上の男性」で「無職」で「同居人あり」の人
 - ②「20～39歳の男性」で「有職」で「独居」の人
 - ③「40～59歳の男性」で「有職」で「独居」の人
 - ④「60歳以上の女性」で「無職」で「同居」の人
- (6) 社会的交流が少ないことが心のストレス度と関連している
- (7) 心のストレス度で中等度～重度を占める割合は女性の方が高い
- (8) 町民の約半数が「身の周りの人を自殺で亡くしている」
- (9) 町民の約5人に1人が「死にたい」と考えたことがある
- (10) 今後の自殺対策として必要な事柄
 - ①地域やコミュニティを通じた見守り・支えあい
 - ②様々な悩みに対応した相談窓口の設置
 - ③児童生徒の自殺予防